

(司会)

市の担当の方から、堺エコロジー大学運営事業について御説明をいただきました。

それでは、これから大体約50分間程度になるかと思いますが、検討委員と市の担当職員方による意見交換を行いたいと思いますが、それでは、早速ですが検討委員の方何か、というふうにお伺いするんですけども、まず、一つだけここで押さえておきたいことがあります。

前に、ホワイトボードがあるんですけども、ホワイトボードが向かって右と左にあるんですが、それぞれに書くようになってるんですね。何を書くかということなんですけど、向かって左側を見ていただきますと、今説明のあった堺エコロジー大学の事業の必要性、あるいは費用対効果。これだけお金をかけてこんな効果が上がっていると、それについてどう考えるか。費用対効果。それから、向かって右側のホワイトボードは関連事業、ほかにこういった環境関係の事業があると。その関連事業とのあり方はどうだという観点。それから、この事業の改善の方向性。大きくこの4つの柱について、これからこのエコロジー大学について少し意見交換を行いたいと思うんですが、皆さん、今から意見交換をして議論をして、ポイントとなったことをこのホワイトボードにちょっと書きとめていきたいなと、このように考えております。

この大きな柱が4つあるわけですけども、この4つに大体沿った形で議論を進めるとうまくまとまっていくのではないかなというふうに考えています。

では、すみません。それでは、検討委員の方、どうでしょうか。何か御意見のある方。とりあえず挙手願えたらと思うんですが、いかがでしょうか。

では、有川さんお願いします。

(有川委員)

NPO法人環境市民の有川です。改めまして、よろしく申し上げます。

御説明、いろいろありがとうございました。非常に充実した講座を継続していらっしゃるということで、私も資料を拝見させていただいたんですけども、こういう講座が市民として受けられたら非常にいいなというふうにまず思いました。

その上で幾つかお伺いをしたいことがあるんですけども、まず、講座の参加者人数を平成22年度から平成23年度、平成24年度というふうに示していただいております、平成22年度から平成23年度、55%が71%になっているということで、多分色々工夫をされたのかなという、ただ一方で課題として人数を増やしていくのは非常に難しいということをおっしゃっていたかと思うんですけども、一つ成果の指標として、こういう定量的な人数というのも非常に重要かと思うんですけども、やはりこういう講座を通して、実際にどれだけアクションをやっぱり起こした人がいたのかということが、多分この講座の一番の成果ではないかなと。その意味では、人数が増え、講座の受講者が増えていくことも大切なんですけども、課題で上げていらっしゃるような、やっぱり今後この受講をした卒業生の方が行動を起こしていく。どれだけ行動を起こしてきたかということがむしろ大事なのかなと。そういった点で、もし何か、今後の課題にも上げてらっしゃいましたけれども、既に行動、何か対策をとられていたりですとか、今、特に把握はできていなくても、何となく事業をやっている中で、実はこういう行動をする人が増えているんですよとか、市の中でこの講座の卒業生がこういう活動を広げていってくれているんですよというようなエピソードがありましたら、ぜひお聞かせいただければなと思うんですが。

(司会)

はい、ありがとうございます。やっぱり人数、参加者もさることながら、実際にそれを受けて具体的にその環境に関して行動を起こした人、活動を始めた人ですね。活動をしていただいている人の状況というようなことだと思うんですけども、その点いかがでしょうか。

(所管課)

環境総務課頓宮と申します。私からただいまの御意見について御回答いたします。

専門コースの修了者の方が中心になろうかと思うんですが、その方たちにいろんな活動に参加していただくというような、我々からのアクションという意味では、エコ大サポーターに登録いただいた方に私どもが運営する一般講座、主催講座への御協力を呼びかけるというところが一つございますが、幅広く多数の人に参加を呼びかけるというところには正直至っていないというところが現状かと思いますので、その辺は今後の課題というふうに考えております。

修了者の方が実際に何か行動されているか、その辺のエピソードということにつきましては、一つはこの専門コースの中でエコロジー大学で実際に講座をするにはどうしたらいいかというようなことを考えるという講座を設けておまして、その中で実際にグループになって考えていただくんですが、考えていただくだけではなくて、実際に次の年度にその講座と一緒に運営していただくというふうに、参加していただくというのが一つと、それから、卒業生の中でグループをつくっていただいて、そのグループで連携講座という形で講座を開催していただいたりですとか、エコ大パートナーという制度で登録していただいたりというような状況がございます。少しずつですが、広がってるかなと考えています。

以上です。

(司会)

はい、よろしいですか。ほか、どうでしょうか。

では、鶴坂委員、どうぞ。

(鶴坂委員)

プール学院大学の鶴坂と申します。よろしくお願いいいたします。

前にも説明のときに幾つか質問をさせていただいたんですが、ちょっと先に御質問させていただきたいと思います。

こちらのほう、フェイスブックとかツイッターとかはやっておられますか。

(所管課)

現在のところはできておりません。

(鶴坂委員)

はい、わかりました。

それから、ほかの他市さんでも似たような事業をされているという御説明がございましたが、この本で言えば66ページにございますが、この中で堺らしさ、特にここが堺として売りですよというようなものはございますか。

(所管課)

堺らしさというところなんですが、一つは専門コースの中にございました、堺市内には大学が

幾つかあるんですが、その堺にある大学で講座を受けていただくと。大阪府立大学さんなんかには実際に受講生の方が直接大学へ行っていただいて、学生さんと一緒に受けていただくと。そういう講座をやっているというところが一つ、らしさと言えばらしさかなというふうには考えてございます。

(鶴坂委員)

はい、ありがとうございます。
意見言っているいいですか。

(司会)

どうぞ、どうぞ。もし、関連であればどうぞ。

(鶴坂委員)

そうですね。私は行政の方というのは、行政のお仕事というのはきっかけをつくるということが大切、そういうことをたくさんつくっていくということがすごく重要なのではないかなというふうに日々考えておりますので、こういう堺エコロジー大学ということを経験に、環境に対する考え方、特に小さな子どもさんとかそういう世代の方にそういうきっかけをつくるというのは、非常に重要な役割を果たしているというふうに私は考えています。ただ、あそこにもございますが、費用対効果という、コストベネフィットというのが非常に重要ですので、いっぱいエネルギーはかけてるんだけど、もう一つアウトプットが少ないよというのは、やはり改善をする必要があって、こちらの事業はやはり改善が少し必要なのではないかなというふうに個人的には考えています。

やはり環境という問題は、市民と共同していく、市民とか事業者さんと共同していくということがとても大事なポイントになると思いますので、こちらの後ろにございますエコ大パートナーさんをどれだけ増やしていくかというのが、一つの方向性にもなるのかなというふうに考えています。

でも、この間も説明会のときに、この大学があったというのは市民の方も知らなかったという人がたくさんいらっしゃったので、やはりちょっと広報の面が弱いのかなとか、これは私なんかは属しています大学なんかでも非常に下手くそなんです。せっかくいいことをしてるんだけど、なかなか周知が徹底されていないという、非常にやっておられることは私たちの暮らしに身近なものではあるんですけども、それが伝わってないんですよ。そこがすごくやっぱり大きな問題ではないかなと思いますので、やはり紙媒体も、アナログ、デジタル、どちらも双方、やっぱりもうちょっと改善をしていくべきかなというふうに思っています。そういう中で、特に若い世代であればフェイスブック、ツイッターというのは当たり前のようにやっておりますので、せっかく「エコまなぶちゃん」というかわいいキャラクターが、この人は縫いぐるみとかあるんですか。

(所管課)

ゆるキャラのところまで行っていません。

(鶴坂委員)

そうですね。一応、二次元の世界でいてはるだけですかね。

(所管課)

すみません。

(鶴坂委員)

まだ、別に縫いぐるみをつくれとは言ってませんよ。例えば、フェイスブックでは「エコまなぶちゃん」とか、「エコまなぶちゃん」がツイッターでつぶやくとか、そういうことをすれば、市の職員さんがつぶやくよりもずっと親しみが湧くのかなという気がしております。

ですので、少しちょっと、やはり広報の戦略、誰に何を伝えたいのかという。広報というのは広くなるんですけど、特にこの世代に対しては、例えば御高齢の方でそういうインターネットを使うのがもう一つ不得意やなという方にはどういうツールで行くのか、若い世代にはどういうツールで行くのかというのを、やっぱりマルチ、今は企業さんでもいろいろな媒体をうまく使い分ける、そして費用対効果で、少ない費用で大きい効果を出すという、そういうやっぱり広報戦略的なことをきっちりをつくっていかれる。せっかくいいことをしているにもかかわらず、ぱっともう一つあれなので、そういうことをされたらいいのかなと思います。

それから、もう一つ、堺らしさというものにもつながっていくのかもしれませんが、やっぱりエコってすごく間口が広いので、今年はこの統一テーマでやりますよというようなものがあると、よりエコの中でもすごく焦点が絞られて、参加もしやすくなるのかなと。一体何を勉強するのかよくわからないというよりは、今年はこれで行きます。まあ、ベーシックな部分は多分共通の知識が要るかと思いますが、そういうことをされてはどうかなと。要は、そのサポーターというか、パートナーさんをつくって、自主的に企画をしていってもらえたら、今、大学なんかはそういうのがはやりで、要は学生が授業を企画して、それを運営していくという。そういうことによって、実は単に一方的に学ぶよりも、自分たちで企画したものを運営していくという、それが失敗してもいいです、大学の場合はね。要はその中ですごく学生は伸びるんです。ものすごく学生は伸びるんです。ですので、そういうやり方をすれば共同という意味も強まるし、市民の意識も本当に高くなるし、そういう方がまた口コミとかでいろんなところでつぶやいてもらおうと、さらに輪が広がっていくのかなと。そして、最終的には市民活動にいかかに、専門家がいらっしゃいますけども、市民活動にやっぱりつなげていくというのがとても大事なので、これは環境セクションとはまた違うセクションになっていくんですかね、市民活動系は。そういう運動として根づかせていくということが大事なんじゃないかなと。私ばかりしゃべってますけども、そういうふうに感じました。すみません。

(司会)

はい、ありがとうございました。たくさん事業の方向性もいっぱい意見を出していただいたので、ちょっと今お二方、検討委員さんから意見が出たので、少し前のホワイトボードにまとめたいと思うんですが、まず、鶴坂さんのお話の中で、必要性の関係で一つちょっと出てきたように思います。このエコロジー大学というのは、この事業の必要性として、環境に対するきっかけづくりになると。そういう事業として、この事業は必要なんだと。特に子どもに対して、環境というものの重要性を学んでいただくと、それがまた家に帰ってお父さん、おじいちゃん、おばあちゃん、家族に広がるというような形で、この事業を少し環境に対するきっかけづくりという形で必要ではないかというのが言えるのかなというような意見がありました。

それから、費用対効果に関しては、もう少し市民とか企業の協力、共同で、費用の削減というんですか、効果、同じ費用でもっと効果が上がるのではないかというお話もあったかというような感じがします。

それから、今度はこちら、右へ向かって右側へ行くと、関連事業とのあり方ということで行けば、提案型の授業、講座なんかをどんどん増やすことで、それがひいては市民活動の活性化にもつながるのではないかとということで、まず市民活動の活性化、拡大というふうに書いておいていただいたらと思うんですが。

それから、事業の改善の方向性、これは今たくさんいろいろなアイデアをお出しいただいたんですが、何点かあります。これは、有川さんからもありましたが、やっぱりエコ大サポーターの話なんですよ。エコ大サポーターの人数の拡大及び活動の拡大ということですね。エコ大サポーターさんをどのように増やして、どのようにその活動の場を広めていくかというのがまず一つ。

それから、広報の話がありました。広報の充実というんですか、もっと広くエコ大について広報しようと。広報の充実が必要ですと。

それともう一つ、最後、改善の方向性で、年度ごとに事業の重点化を図るというんですか。何か一つのテーマを決めて、今年はこれに重点を当てて取り組みます。来年はこういったまたちょっと違ったテーマを上げて取り組みますよということで、年度ごとに事業の重点化、テーマを決めて事業を進めるべきではないかというようなお話があったと思います。

今までのお話をまとめると、このような形になるのかなと思うんですけども、さあどうでしょう。ほかの委員の方。

(鶴坂委員)

すみません、いいですか。

(司会)

はい、どうぞ。

(鶴坂委員)

充実というよりも、戦略的な広報を。お金をばっと思えというのではなくて、ターゲットと目的をはっきりして、効率のいい広報をしてくださいと。

(司会)

なるほど。はい、では広報の充実を戦略的広報というふうに書いておきましょう。

そうですね。誰に何を伝えるかというのを、やみくもにするのではなくて、きっちりとそういう内容を議論した上で広報を拡充するということですね。まさしく戦略ですね。

どうですか。では、ほかの検討委員の方。

では、金川先生どうぞ。

(金川委員)

和歌山大学の金川です。

御説明ありがとうございました。非常におもしろい取り組みをされてるなというふうに思ったんですけども、もっといいものにしていくための質問と改善提案をさせていただきます。

まず、事業の必要性というところ言えば、もちろんこのエコという時流の流れから言えば、この事業に関してはある程度必要だと思います。ですけれども、一般講座100講座、それから、1年間の20人の講習で予算が1,000万円という、市民が聞いてこれは本当に必要な、そんなにかかるのという感じは多分否めないと思うんですね。ですから、私はその講座

の必要性という点で言えば、例えば65ページでその活動指標と成果指標をあくまで何人受けましたという形のみでしか示されてないじゃないですか。これは量の問題であろうと思うんですね。本当に成果指標をはかるのであれば、質ということをきっちりはかっていただきたいと思うんです。ですから、まず1点目の質問としてお伺いしたいのは、こういった一般講座を受けられた人の意識がどのように変わったかという質的な調査、つまり講座受講後にアンケート調査なんかをして、きちっと今後こういった講座を開いてほしいとか、こういうふうに分の気持ちが変わったよというようなアンケートをまずされて、フィードバックを次の年度の講座にしておられるのかどうかというのを聞きたいと思います。それがやっぱりできてないと、講座の充実は何ぼ稼働しても意味がないというふうには思います。

それから、2点目に、これは改善の方向性で、先ほど鶴坂先生が言われたことにも重なると思うんですけども、パンフレットで一般講座をいろいろ開いてますというふうにありますよね。通常の方がこれを見て、ああ、私は自分が興味があるからこれをやろうみたいなふうには、具体的に講座を選ばれていく方もいらっしゃると思うんですけども、最初は何となくこれから始めて、私は森林のことが気になるよとか、私はごみのことが気になるよとか、私はエコを通じた家庭の食育みたいな話が気になるよとか、何となくエコでもいろんな分野に分かれていくと思うんですよ。その仕分けみたいな、何かこう、何とかが興味ある人はこういう形でこの講座を受けていったらいいんじゃないですかみたいな、講座のレベルと順序みたいなものとか、分類分けが全然なされていないというのが一般講座で気になったんですね。ですから、そういうようなことを意識づけされておられるのかどうか。されるつもりがあるのかどうか。そのことによって一般講座を何個か受けて、この道を少し真剣にやっていきたいなと思った方は、多分専門講座に進むみたいな、流れのプロセスをちゃんとつくってあげる必要があるのかなというふうに思いました。その意味では、今の講座は、ただ一般講座がざあっと並んでる。専門科いうのも、正直すみません。この専門共通講座というパンフレットを見た限りでは、何かそのコース別であるのか、専門的にきわめたいみたいなものが計算してきちっと盛り込まれているような感じは私は受けません。言うならば、うちの大学もこういう広報の仕方は下手ですので、やっぱり役所とか行政の特性かなと思うんですけども、受けに来る人が何を求めて、こういう道筋で行きたいよみたいなのが、きれいに並んで誘導する方向になっているのかどうか。その部分がやっぱり改善提案、戦略的なものだというふうには思うんですね。そういうようなことを意識されておられるのかどうか。

それから、鶴坂先生がおっしゃったように、こういった市民講座を受けてこられて専門的知識を得られた方というのは、こちらの持っている方によってはすごく伸びてこられる、力になって、本当に社会の環境の戦略を考えるのに、市民として非常に心強い力になるという人が育つ余地があると思うんです。それを育てるやり方をちゃんとしておられるのかどうか。具体的には、専門コースで終わったサポーターの人を一般講座の単なるお手伝いに使いますはもったいないだろうと。それはちょっとサポーターの人に失礼ではないかと思えます。もっと具体的に一般講座を主催できるようになるとか、あるいは専門講座を修了した人が学習発表会なんかをして、市民のところに、私はこういう力がつきましたみたいなことを発表してもらって場を修了と一緒に設けることによって、もっと活動の幅が広がるというふうには思うんですけども、そういったことをどのように考えておられるかということをお伺いしたいです。いろいろ言いましたけれども、以上です。

(司会)

ありがとうございました。

今、大きく3つあったかなと思うんですね。

まず、1つ目が成果指標は質的にはかるべきということで、受講生のアンケートなんかをとってフィードバックをされてるんでしょうか。

それから、一般講座、あるいは連携講座ですよ、それとか専門コースのカリキュラムというのが戦略的に練れているのかどうかというのが2つ目。

それから、3つ目として、サポーターさんを単に手伝いをさせてるのがもったいない。もっと高度な教育をしていただくような場というのを検討されているのかどうか。

この3つだったと思うんですが、少し御説明いただきたいと思います。

(所管課)

貴重な御意見ありがとうございます。

まず、アンケートにつきまして御説明を申し上げます。受講後のアンケートにつきましては、私ども堺市が主に主催する一般講座の中でも、市が主催する講座でありますとか、それから専門コースの中の専門共通講座、それから専門コースの場合は1年間を通して受けますので、その最終回で年間を通してという形で、いろんな形でアンケートはとってございます。その中で、よかった悪かったとか、今後こういったテーマの講座を受けてみたいとか、専門コースであれば活動していくような意識が高まりましたとか、そういった形でアンケートをとっております。例えば、こんなテーマで今後受けたいということや次年度以降に反映できてるかということにつきましては、すべて反映し切れてるとは当然ちょっと言えないんですが、多少は今後のテーマを考えていくにあたりまして、講座を考えていくときに、こういう意見があったから次はこういう講座をやろうかなというような形で念頭には入れておるところでございます。正直100%の実現はできていないというのが本音でございます。

以上がアンケートについての御説明でございます。

次に、一般講座と専門コースとの流れはうまくできてるかというか、講座のレベルとかにつきましてなんですが、一般講座につきましては、御指摘いただきましたとおり、特段、例えばレベル1、2、3というような割り振りをしておったり、テーマで流れるように受けていってくださいなというようなところはできていないというのが現状です。大きな流れとしては、当然この一般講座を幾つか受けていただいて、環境のことをもっと学びたいなと思われた方が専門コースを受けていただくという大きな流れは考えておるんですが、その細かいところまでのフォローというところができていないというのが実情です。今後改善していけるところは改善していきたいと考えてはおります。

以上が2つ目の点かなと思います。専門コースの中身につきましては、流れをきっちりというところまではできていないというところもあります。

最後に、修了生、エコ大サポーターの活用につきましてなんですが、主に正直申し上げますと、堺市が主催する一般講座にサポートとして入っていただくというところが多いんですが、それ以外に、サポーターの方に専門コースの専門共通講座というところで講師を務めていただくというようなお願いをしておったり、先ほどもちょっと御説明したんですが、エコロジー大学の専門コースの修了者で任意団体でグループをつくっていただいております、その方たちでいろんな企画を考えていただいていると。ここに堺市としてもサポートしていくというところで、ちょっとずつではあるんですが、お手伝い以外の部分でも活動が広がりつつあるかなというところではございますが、まだまだ全面的に活躍していただけるというところには至っていないので、今後そういうところも十分に考えていきたいと考えてございます。

以上でございます。

(司会)

金川先生、どうでしょうか。

(金川委員)

はい。平成22年から始められたものなので、まだまだ課題はあると思うんですね。私は今の段階でいろいろ説明をしましたがけれども、意見を言いましたけれども、できてないからダメじゃないかというつもりはないんです。行政の担当者の方がそういうようなことを自覚されて、じゃあ平成25年、平成26年、何をどういうふうにしていこうかというふうに通う工夫を練られることで、この堺エコロジー大学が、例えば政令指定都市のほかの町と全く違うような、同じような事業をやっているけれども質的には全然違うようなものなんだよ。うちは誇れるようなこういう事業なんだよと言ってもらえるために、今御指摘をしました。ですから、検討委員さん、市民委員さんの意見もそういうふうを受けとめていただいて、今後進めていただければ大丈夫かというふうに思いますので、結構厳しいことを言いましたけれども、機会とか、そういうふうに通うに促していただきたいと思います。

(司会)

では、ちょっとまた今のやつ、まとめておきたいんですけれども、どっちかというやっぱりまた改善の方向性の話が多かったかなという感じがします。そのアンケートをとって、それを実際にまた次の年度の事業に活かしていくかというのは、よくPDCAサイクルという言葉がありますよね。これは皆さん御存知だと思いますけれども、要はこのエコロジー大学事業についてもPDCAを働かせるということがまず一つかなというふうに思います。

それと、その講座とか、あるいは一般的にカリキュラムと言うんですかね。その専門コースなどではカリキュラムになりますが、その講座カリキュラムの戦略的な編成を行うべきであるというのが2点目ぐらいかなと思います。

あと、サポーターさんの話がありましたけれども、サポーターさんの話は一番上に書いてるように、エコ大サポーターの活動の拡大の中にちょっと含まれてるということで考えたいと思いますが、大体今のお話をまとめるとこのようなことかなと思います。

もう少し時間がありますので、ほかにもいろいろ御意見を伺いたいと思うんですけれども、ではすみませんが、牧野さん、どうでしょう。すみません。

(牧野委員)

それでは、今までのお話をお聞きした中で、意見というか感想になるかもわかりませんが、少しお話をさせていただきたいと思います。

事業の必要性については、もうこれは環境という流れからいっても必要なんだろうというふうに思います。

それから、費用対効果ですけれども、費用についてはある程度事業をやろうと思えばこのぐらいは必要なんだろうというふうにも思います。ただ、やり方についてはいろいろほかのやり方も探ることもあっていいんじゃないのかなというふうに思います。

一つ思ったのは、事業の説明の中であつたんですけども、子ども向けに対して一つ冊子をつくらせたりとかやられとるとのことなんですけども、私が感じる、自分自身もそうなんですけども、環境と言ってもなかなか自分で動けないので、頭では大事やというのはわかってるんですけども、もう僕くらいになってしまうとなかなか今さらというところもあって、だから本当にコアな人というか、非常に熱心な人がいらっしゃると思うんで、そういう人は放っておいてもやっ

ていってもらえるか、逆にそういう人たちを後押ししてやっっていかれる専門コース、逆に大人なんかは専門コースをもうちょっと充実して、本当に興味のある人にこれにあたって進めていただいて、本当にサポーターになってもらう。子どもに対してはもっと一般的な、今の一般講座なんか全部子ども向けに変えてもいいんじゃないかなというぐらいにも思うけど、もっと張りきかせて事業に取り組んでいくということもあっていいんじゃないだろうか。ちょっと今なんか総バラ的なパンフレットなんかを見ても、大人が参加してもこれで本当に一般講座をとって、環境意識が本当に高まるのかなど。ただ単に、言っちゃなんですけどレクリエーションみたいなので終わってしまうとあれなんで、それよりもやっぱり子どもというのを中心に底上げを図るという意味では、集中的に選択と集中じゃないですけども、その辺の工夫があってもいいんじゃないだろうかというふうな感想を持ちました。

以上です。

(司会)

ありがとうございました。必要性については問題ないであろうというようなお話で、最後にもう少し張りをつけるというんですかね、事業の対象者をもう少し絞って取り組んだらどうか。特に子ども向けの事業というような御意見でしたが、そのような検討というのは市のほうではどうでしょう、されてるんでしょうか。やはり市がやる事業ですから、子どもから高齢者までということで網羅的にやっぱりしなければならないような立場でお考えなのか、それとも、選択と集中というような言葉もありましたが、今後は、例えば今年はまだ子どもさん重点でやろうとか、さっきもテーマを重点しようというような話もありましたけど、それで今の市のお考えはどうでしょうか。

(所管課)

今のところ、堺エコロジー大学、先ほども説明しましたように、基本的に子どもから大人まで幅広い層を対象にということで、特に絞ってやるという考えはございません。ただ、夏休みであるとか、お子さんと親御さんとかが学校という教育の現場を離れてちょっと自由になる時間があるときには、子ども向けの講座をできるだけ多くして、お子さんをターゲットにして親を引き込んでなんかやっていきたい、そういう形のカリキュラムを組むことは考えておりますので、基本的には幅広くということで考えてございます。

(司会)

時期的に子ども中心のシーズンがあったりとかいうような感じなんですか。

(所管課)

はい。

(司会)

ただ、今度それをさっきの戦略的広報とかありましたけど、そんなんで広報していただいて、夏休みはとりあえず子どもをターゲットでやるよと。冬場は高齢者をターゲットでやるよとか、内容も高齢者向けにシフトするよというような形でまたお考えいただくと、市民の方も参加したいなということに、夏は子どもを夏休みにここに参加させようとかということで、また親御さんもお考えになるのかなという感じがします。

それでは、すみません、お待たせいたしました。野村委員、何か御意見お願いいたします。

(野村委員)

野村でございます。

環境というテーマは割と注目されてるテーマで、皆さんの意識にある割には、最初のアンケート等にもあるように、どうしても自分に余り関係がないとか、非常に難しいとかということで、割と意識が分かれがちなテーマだと思うんですね。そういう意味では、浸透させていくためには、割と地道な努力というのがかなり必要だと思います。

今回のこの取り組みというのは、割とハードルを下げた一般講座を開催して、その中から専門コースに吸い上げていくという、その仕組みそのものは非常にいいと思うんですけども、ただその割には専門コースに行かれる方が非常に少ないと。数としてもですね、いうふうに思うんですね。今、これ定員が20名で、目標がその定員の7割の14名にしておられるというのが、まず、なんか20名ぐらいだったら目標そのものが定員を埋めるというぐらいの目標が本来必要なんじゃないかなと。もっと言うと、例えば2,000人の一般講座の方がおられたら、3%が専門コースに上がっても60人とか、5%だと100人ぐらいになるわけですよ。本来の目標からいったらそれぐらいだと思うんですが、せめて定員の20名ぐらいは埋まるぐらいのことが必要なのかなと。それは先ほど金川先生からも御指摘ありましたが、やっぱり一般講座から専門に上がるための、導くというか誘導の仕組みも必要だと思いますし、それからこれは先ほどからも議論に出てますけども、最終的に修了したときの活躍の場というのが、サポーターということだけだと、やっぱりなかなか専門コースに行こうというモチベーションにつながりにくいんじゃないかなと。特に割と高度な意識を持ってる方であればあるほど、専門コースに行ってから後のところがもう少し何か必要なんじゃないかなと。余りエコ大という中だけに限らず、外部のところのプログラムにも堺市でそれを橋渡しするとか、そういうことをして、必ずしもエコ大の中での活躍、活動というだけじゃなくて、外部での活動の場ということを提供されるということも必要なんじゃないかなというふうに思うんですね。特に今回の取り組みでしたら、一般の方々への意識の向上ということも大事だと思いますけれども、特に専門的な知識を持った方々を育成していくということが、堺の環境の未来ということを考えるという、人材育成というもとのこのテーマに沿うと、やはり専門コースの充実と、専門コースから出てくる人たちの活動ということが非常に大きなテーマだと思いますので、ちょっと目標が余りに、何で定員の7割になっているのかがよくわかりませんが、その辺のことも含めてお答えいただけたらと思います。

(司会)

では、お願いします。

(所管課)

ありがとうございます。

まず、初めに専門コースの定員の考え方についての御説明でございます。この20名という定員についてなんですが、この専門コースの中身で大きく3つ挙げさせていただいておる中で、大阪府立大学さんで授業を受けられるという、これは一つの目玉にもなっておるんですが、環境学というものが、いわゆる大学さんが社会人向けに開講しているものではなくて、通常の学生さんの授業を受けるというものになってございまして、その中で一定受け入れの人数に限界があるというふうに聞いてございます。まあ20人程度であれば、学生さんの中に多少入っていても人数的に耐えられるというか、受け入れられるというところがございまして、この専門コースを考えると、大阪府立大学さんの授業を一つ受けていただくというのをメインに考

えておりましたので、毎年20人という定員を設けてございます。

それから、成果指標の定員の7割というところについてなんですが、実は毎年20人を募集しております、募集に集まってきてくださる方は大体20人、集まっているのが現状でございます。ただ、専門コースを修了するという、1年間通して受けていただくんですが、一定ハードルを設けてございます。例えば、堺市が用意する専門養成講座12回のうち8回以上受けてくださいですとか、府立大学の環境学は1科目以上絶対受けていただいて、8回以上出席してください。そういうハードルをこちらで準備してございますが、そのハードルを乗り越えていただけるかということところが、堺市からのプッシュがなかなかききづらいとか、その人、受講される方自身のお考え方とかスケジュールとか、そういったところによってしまう部分がございます、なかなか全員が無事に卒業するということには至っていないというのが正直なところ。したがって、一応この専門コースの修了者数というものを成果指標にしておりますので、7割ぐらいですね。7割程度は卒業してほしいというこちらの願いみたいなものも少し混じったこの指標報告という形にさせていただいております。それには平成24年度は少し少ない修了者数だったんですが、これは毎年1年ぼっきりで終わりというわけではなくて、次の年度にもまた授業を受けていただいて、講座を受けていただいて、数がそろえば一応修了というふうにさせていただくという制度にしてございますので、また今後この数字が増えていくかなというふうには思っております。

そうですね、一般講座から専門コースへの流れというの、なかなか我々もずっとそう思っているところはあるんですが、正直うまく準備できていないというところはどうしてもありまして、またその辺は今後の課題かどうかなということをやちょっと感じておるところです。

以上でよろしいでしょうか。

(司会)

どうでしょう、野村さん、よろしいですか。

(野村委員)

まあ、結局それは数としては脱落される方が多いということですね。それはよくわかります。ちょっとエコ大、外のプログラムへの橋渡しとか、その辺のところはどうですかね。その専門コースの修了の方が外部で活躍できる場の提供とか紹介とかということは。

(所管課)

エコ大サポーターの方を外部のところへ橋渡しするというところは、正直余りできていないというところが現状かと思えます。外部の、例えば環境講座でありますとか、そういったものの受講案内とかにつきましては、我々も情報をもらっておって紹介してほしいと言われた場合には当然紹介して、こういうのがあります、こういう活動もあるみたいに紹介、チラシ等の配布等は行ってございますが、実際に我々が間に入ってというところまではなかなかできていないというところが現状です。

(司会)

よろしいですか。これで一応一通り、皆さん検討委員の方から御意見をいただきました。

どうでしょうか。ほか何か、検討委員の方、もう一度。

金川先生どうぞ。

(金川委員)

すみません。先ほど子どもの話が出たので、ちょっとそれに関連しての御質問をさせていただきます。

72ページのところのその他というところで、この事業の中の1つの取り組みとして、環境学習副読本の印刷、配布というのが入ってると思うんですけども、これは言ったら和歌山市なんかでもやってるんですけど、大概小学校の4年生とか5年生にこういう学習の副読本を配ってますよね。大概の市町村で、正直やってると思うんです。堺市さん例えばほかの地域と違って、環境の学習副読本、うちはこういうふう工夫を凝らしてるとか、これを見れば堺市のことがよくわかるんだみたいな環境の取り組みがというふうに、中身をまずされてるのかどうかというのが1点目と、それから、総合学習に活用されてるんですけど、具体的にどういうふうにされてるのか、成果を把握されておられるのか。逆に、この副読本をうまく使えば、例えば子どもを一般講座に誘導するとか、もっと関心を持ってもらうというのができると思うので、その効果的な使い方をどのように検証されておられるのかというのをちょっとお伺いしたいと思っています。中身はちょっと国が決めたものもあるし、なかなか個性的に入れるのは難しいかもしれませんが、一応聞いてみます。

(所管課)

はい、ありがとうございます。中身についての工夫なんですけど、一定、絵をたくさん入れるとか、漫画チックな部分なんかを取り入れておまして、子どもにも読んでもらいやすくしてるつもりではございます。

ただ、堺ならではの工夫ということになりますと、なかなか当然堺の自然環境とか、そういった部分で堺のものだということはわかると思うんですけど、それ以上のところまではなかなかいないかなというのが率直なところでございます。

副読本の活用方法というところについてなんですけど、小学校4年生に配布してございまして、この総合学習の中で、特に小学校4年生はごみの学習をしております。この副読本の中にもそのごみのことが当然入っておるわけなんですけど、ごみの学習、クリーンセンター、清掃工場の見学なんか小学生がよく行くんですけど、そういうときによく活用していただいているということは聞いてございます。

これを見て、小学生を一般講座に引き込めるようにというところは、当然我々もその辺はそうなってくれば大変うれしいことなんですけど、そこまで至ってるかどうかというところまではなかなかリサーチはできてございませんので、また何らかのアンケートなんかで聞いてみられたらと思います。

(金川委員)

すみません、ありがとうございます。

何かちまちま言って申し訳ないなというふうに思ってるんですけど、せっかく印刷代をかけるので、効果的に使ってほしいなというのが一つあって、後はこういった堺市から配られるものを通じて、自分たちの地域の環境に興味を持つことによって、堺市にやっぱり愛着を持ってもらうというのがあると思うんです。こういう環境があるこの町に住んでよかった。そしたら、いい堺の子どもが育っていくと思うんです。そういうような効果もあるので、一つはそういうことを意識してほしいなという意味で言いました。

副読本の中身については私も、じゃあいいアイデアを出せと言われてたらできないですけども、その辺はまた御検討いただければと思います。

(司会)

はい、ありがとうございます。

今、金川先生のお話の中で、堺らしさというような言葉が一つ出てきたと思うんですけども、それで今までの話、ほかの鶴坂先生のところでも堺らしさは何ですかという話も出てきました。やはり政令市、ほかにもたくさん同様の事業をされておりますので、その中で堺がちょっとピカッと光るためには、堺らしさ、堺のこういうところに特徴を持って環境教育なりを進めていますというようなところがアピールできれば、また全国に堺という名を発信できるのかなという感じがしますので、ひとつこれを改善の方向性でキーワードとして入れさせていただきたいと思います。堺らしさというような言葉を一つ入れておきたいと思います。

それと、費用対効果のところ、今、副読本の話がありましたが、やっぱり子どもというのは環境の改善、あるいは環境の啓発を進めていく上で、一つのポイントになるのかなと思うので、同じお金をかけるのならということで、副読本の効果的、効率的な活用というのを一つ入れていただきたいと思います。

それで、そろそろ予定していた50分がまいるんですけども、私から最後に1つ、2つだけ確認というか、お話をさせていただきたいんですけども、エコ大サポーターさん、専門コース修了者の方等にどのように活躍をしていただくかというところで、堺エコロジー大学の一般講座でももちろん活躍していただいています、協力いただいていますという以外に、このほかの担当課が実施されてる事業で、こういう環境啓発的な事業がほかにもたくさんありますよというのをお聞かせ願ったんですけども、その他課ないし、まず外部への活躍の場というのはなかなか、一足飛びでは難しいと思いますので、まずはみずからの所管課、担当課が実施している一般講座で協力してもらおう、活躍してもらおうと。その次は、同じ堺市内で、堺市役所内のほかの課が取り組んでいる環境関係の事業で活躍してもらおう。その次に、堺市以外の外部の民間企業とかNPOさんなんかの活動で活躍してもらおうというふうに、ステップを踏んでいけると思うんですけども、そのときに、まずは自分の担当課以外のほかの課でやっておられる環境関係の事業で、サポーターさん、専門コース修了者の方に活躍していただいている方は実際あるのか。もしないのであれば、そういう方向をやはりちょっと考えていただきたいと思うんです。これが一つです。

それと、費用対効果の話になるんですけども、この評価シートを見ますと、国とかの補助金を少しとられてるといような感じで数字が入ってるんですけども、やはり同じ税金を使う上では、できるだけ税の負担を軽くするという面で考えますと、外部からの資金の獲得というものにも努力をしていただくほうがいいのかなという感じがあるんですけども、その場合、最近いろんな財団でありますとか、いろんな公的な研究機関等が、こういう環境についてはたくさん助成しますよという形で、いろいろ情報発信をしてるんです。何も補助金をもらうのは国からだけではなくて、国以外の機関からも何とか財団で環境教育をしたら幾ら幾ら援助しますよというような制度がたくさんあります。そのような外部資金を獲得するための努力、あるいは情報収集というのはされているのか。その2つについて、少し最後に確認をさせていただきたいと思います。

(所管課)

ありがとうございます。まず、1点目のサポーターの方のほかの部局での活用状況というところなんですが、現在のところ、すみません、ほかの課の環境啓発等の講座にサポーターが行ったという実績はございません。もちろんその環境、今この環境総務課が所管している環境啓発以外の部分、特に環境局内には幾つかあるんですけども、今後はそういったところにも活用でき

ばいいなとは思いますが、なかなかそこまでお話が進んでいないということが率直なところでございます。

次に、外部の資金についてなんですが、我々のほうでも国の補助金でありますとか、大阪府さんの補助金でございますとか、それから、いろんな財団法人さん等の補助金があるというところは情報収集はしてございます。また、案内も結構たくさん来てございます。幾つかお金という形ではなくて、物品の支援という形では、財団法人だったかな、からちょっと支援をしていただいていることはございます。消耗品が主でございますけども、そういった形で物品の支援は現在も幾つかいただいております。

それから、財団法人さんでやってる資金をとりに行くのは申請もしておるんですが、ちょっとなかなかとれてない部分があるというのも現状でございます。

すみません、以上でございます。

(司会)

ありがとうございました。

外部資金は努力はしていただいているということで、それはさらなる努力をしていただきたいなと思うんですけど、ということで、まだ同じ堺市役所内でほかの課がやってる環境啓発事業に、サポーターさんなんかうまく協力いただけてないというようなお話がありましたので、ちょっと関連事業とのあり方のところに書かせていただきたいと思うんですが、ほかの部局実施の事業へサポーターさんの活動の場を広げるというような形で一つ書かせていただきたいと思いますのと、外部資金、今努力しているということですが、お金の面なんで一応これは必要やということで、費用対効果のところでも外部資金の獲得に努めるというような形で表記をさせていただきたいと思います。

では、すみません。それでは、大体予定していた50分、時間がたちました。検討委員さんと市の担当の職員の間での意見交換というのは大体これぐらいにして、ここから大体15分ないし20分ぐらい時間をとらせていただいて、今度は今のお話をお聞きいただいていた市民審査委員の方から御意見をいただきたいと思うんですけども、ここで市民の委員の方から御意見をいただくわけですけども、今の検討委員と市の担当者間の話聞きながら、もう少しこちら辺を詳しく聞きたいとか、これはちょっとわかりにくかったというところでお話をさせていただきたいと思います。

御自身のお考え方、こうすべきだ、ああすべきだというところは、後ほどまた時間をとっておりますので、今の段階はとりあえず今の議論を聞いた中でもう少し聞いておかなければならぬ、ここをもう少し説明してほしいかというのがあればお伺いしたいと思うんですが、さあ、どうでしょうか。挙手を願えたら、順番に。これ、マイクあるんですかね、皆さんに。

(所管課)

はい、ございます。

(司会)

では、担当から、お手を挙げていただくとマイクをお渡ししますので、マイクで御発言いただきたいと思うんですが、いかがでしょうか。

では、どうぞ。そちらの方。

(市民審査員)

すみません。副読本の件なんですけども、これは小学校だけに配布されてるということなんですけど、中学校とか高校とかというのはずっと続くわけですね。認識の根づけとして、小学校から道德の時間とか、中学校での環境教育の時間とか、そういった形でサポーターの方をそちらの、堺市の教育委員会と連携して、サポーターの方を小学校なり中学校なり高校なりに派遣して、そういった活動というのは、やっぱりコスト的にはきついものがあるんですかね。それとも、やっぱりまだそこまでの展開はちょっと頭にはないんですかね。

(司会)

サポーターさんを直接学校へ派遣してというか、行っていただいて、そこで子どもとかにいろいろお話をさせていただくということですね。

(市民審査員)

そうです。修了した方に関して、堺市から直接小学校、中学校、高校に活動の機会を与えるというような。

(司会)

なるほど。

(市民審査員)

そういった形での考え方に関して、コスト面もありますけども、意識づけの考え方として、堺市はどう考えてらっしゃるのかなということ。

(司会)

わかりました。今、サポーターさんの活躍してもらおう場として、教育の現場、直接小学校、中学校、高校があるのではないかというお話で、そういった検討をされてますかというような御質問だと思うんですが、いかがでしょうか。

(所管課)

エコ大運営にあたって、エコ大運営会議というのをしております、そのメンバーに教育委員会の方も入っていただいて、その中でこういうサポーターですね、これからどういう活用ができるのかということと一緒に考えてはいただいています。ただ、現実的には、実際にそれがなってるかどうかということについては、ちょっと把握はできていません。というのは、制度として、この教育委員会で使ってくださいというような制度は今つくってませんので、もしあり得るとすれば、個人的に自分のお住まいの小学校で何かあれば協力します、すみません、わからないですね。エコ大を卒業したサポーターの方に、自分のお住まいの小学校とかに何かあれば、私いろいろ教えに行きますよということで、学校に登録かなんか、申し込んでおられて、声がかかったら行くとか、そんなことがあるかもしれないんですけども、制度的には今のところ、うちの学校を卒業した人をこういう形でキープして派遣しようというような制度まではつくっていないというところです。

(市民審査員)

特に、例えば今、ほかの先生方に関しては、やっぱりほかの教科で教えるのが手いっぱいじゃ

ないですか。そうすると、これ環境だけですけれども、そのエコ大サポーターの方をそちらのほうへ派遣されて、わかりやすく教えていくということで意識づけができるんじゃないのかなと思ったんですけれども。

(司会)

どうでしょうか。

(所管課)

貴重な御意見ありがとうございます。我々もそういう道も一つあるかなと思っておりまして、運営委員会に、教育委員会とか学校の関係者も入っていただいておりますので、その先生方と意見を交わしながら、今後の発展には広く考えていきたいと考えてございます。

(司会)

教育の現場にそういう外部の人が講師なんかで入っていくというのは、これは別に問題はないわけですよね。教育委員会が来てください、大丈夫ですよという案内をいただければ、大丈夫なわけですよね。

(所管課)

問題ないかと思います。教育委員会さんでもそういう制度もまた別個にありまして、環境に限らずいろんな分野の人をサポート登録の形にするという制度があるようです。

(司会)

なるほど。では、そこで一つエコ大サポーターさんの活躍、活動の場として、教育の現場というのも議論の俎上に上げることはできるわけですね。

(所管課)

はい。

(司会)

はい、わかりました。
よろしいですか。

(市民審査員)

ありがとうございます。

(司会)

では、どうぞ。お隣の方どうぞ。

(市民審査員)

すみません。先ほど結局エコの教育というのは、やっぱり小学生、小さいころから始めるのが一番いいと、そういうふうに言わずとエコに対する考え方を培っていくんじゃないかという、そうおっしゃってましたんですけれども、現状、市民団体のほうになると思うんですけれども、廃品とか活動ですね。過去はこども会がずっとやりました。今、ほとんど子どもがいない

で、少子化になってしまっていて、こども会自体が存続しないという状況の中で、そういう環境活動に取り組むということがちょっと薄れてきてるんじゃないかと思うんです。ただ、それをもっと底辺まで広げてほしいということは、この中でちょっと考えるということは、別、じゃないかなとは思いますが、ちょっと僕らもそういう危機意識を持っています。逆に。それは初期の段階でお願いしたいなど。

(所管課)

はい。

(司会)

まあ、今、日本も全国的に少子化、少子化ということで、子どもの数が減ってるということで、地域によたらもうほとんど子どもの数がない、こども会すら成り立たないような状況で、子どもに焦点を当てるのもいいけれども、それよりもやっぱり子どものいない地域ではそれ以外の市民の活動とかに焦点を当てたらどうかというようなお考えだったと思うんですけども、もちろんそういった感じで市も検討なんかはされてるんですよ。子どもは子どもとして焦点を当てるけれども、先ほどから、子どもから大人まで幅広いというようなお話がありましたけれども、再度になるんですけども、その点、この事業の対象について、もう一度御説明をいただければというふうに思うんですが。

(所管課)

この堺エコロジー大学、特に一般講座という幅広いものの講座につきましては、子どもから大人まで。大人と言っても若い人から、お年を召された方まで幅広くいると思うんですが、いろんな方に来ていただけるような講座をつくってございますので、そういう意味では子どもから大人までいろんな方に来ていただいて、またその活動の参考になるような講座を受けていただければなというふうに考えてございます。

(司会)

ほか、どうでしょう。まだ少しお時間とれそうですが。

(市民審査員)

意見は後で述べる時間があるんですか。

(司会)

ええ。もっとこの事業をこういうふうに改善すべきだというような意見は、ちょっと後でお聞きしようかなと思うんですが。

はい、じゃあどうぞ。

(市民審査員)

先ほどお二方の御意見と金川先生の御意見もあって、今、環境教育の場をいかに広くやるか。特にこれエコ大学だったら、受講生と言いますか、参加する人をたくさん増やすことというのは、やっぱり面積を増やすことが一番大事だと思うんですね。先ほど、小学生、中学生、高校生の話がございましたけども、私は青少年育成指導員をやらせていただいていたんですよ。ここ3年ぐらいずっと見てるんですが、はっきり申し上げて、中学生が一番悪いですね。皆さん方

も多分目の前で見てはと思うんですが、公園でガムを食べて、飲んで、それを放ったらかしにするとかですね、今だと夏ですと公園で花火して、花火をそのまま放って帰るとか、そんな人がいっぱいあるんです。要するに、環境を自分たちで破壊していくようなことが目の前でいっぱい起こっているんです。私、本当に一番直接的に私が経験した中では、やはりいかに中学生のそういう環境の意識を高めていくかとかいうことも非常に大事だし、それが逆に、例えば防犯とか安全とか、そういうことに一番つながるんじゃないかというふうに思っていて、今回そのこういうエコロジー大学の場合もあるわけですが、この中で一般講座の中に専門テーマとしてそういうものを設けたらどうかというふうに、私なんか痛切に思っています。それを含ませていただくような発想を、やっぱり具体的にエコロジー大学という枠の中だけで考えてしまうと、非常に組織の壁がありますから、乗り越えれないと思うんですけど、その組織の壁を乗り越えることが一番大事だと思うんで、事業の発展性を考えたときは、そこら辺はちょっと枠を越えていただいて、教育委員会とびったり手を組んでいただくようなことが本当にできないだろうかというふうに思ってるんですけども、それでもっとそういう方向性を少し、僕は教育委員会と思うんです。

あと、こども会の話もございましたが、こども会の現状は、私もこども会をずっと15年もやってきましたからよくわかるんですが、確かにおっしゃるとおり非常にこども会との連携というのは難しい状況です。地域によってやはりごみの回収のところは今でも子どもたちにやらせてるところもたくさんございます。その中で思ってるんですが、やはり子どもが回収しているところは、エコ意識が高いです。確かに高いです。やっぱりやってないところは、親が勝手にやるところがあるんですね。あるいは行政に任せてるところがあるんですね。そういうところはやっぱり低いです。やっぱりそれは如実にあらわれてるんですね。だから、こども会の連携というのも一つ大事かなと思うんですが、これはもう子どもの親御さんを中心としたこども会の組織ですから、そこはもう少し時間がかかるでしょうけども、少しそこも模索したほうがいいんじゃないかというふうに思うんですが、そういうことも少し検討いただけるようなことをお願いしたいなと思います。

意見になってしまいました。すみません。

(司会)

貴重な意見だと思うので、少し確認を私のほうでさせていただきたいんですが、一般講座で中学生、今中学生の話が出ましたけど、中学生でありますとか、あるいはこども会単位を、単位こども会を対象とした講座というようなのはあるんでしょうか。それとも、一般講座はまさしく一般で、広くオープンで、誰が来てもいいですよというような感じなんでしょうか。

(所管課)

ありがとうございます。まず、一般講座の中でこども会単位で受講していただくというような講座は今のところはないというのが現状です。子どもの参加という意味につきましては、ほとんどのケースで親子での参加というものが現在ほとんどでございます。親子向けという形で、親子の方限定という講座はございます。

おっしゃられてた中学生とか高校生とか、正直申し上げまして、このエコロジー大学でも一番恐らく参加が少ない世代であろうと。中学生が例えば単独で受講するというのはなかなか難しいのかなと思っておるんですが、逆に親子で来るというのも、ちょうど中学生、高校生ぐらいだとなかなかない部分でございまして、率直に申し上げると一番少ないだろうというふうに思っております。今後その辺もまた考えていきたいなと思うんですが、なかなか難しいなと

いうところもあります。

(司会)

どうでしょうか。もうお一方ぐらい、何でしたら時間とれそうなんです。よろしいですか。また、後ほど事業に対してこう改善すべきだというのは少しお伺いする時間をおとりいたしますので。

では、今のところはこれで一旦、市民審査員の方からの御質問の時間というのはこれで終了にさせていただきますと思います。

それでは、今までのいろんな意見交換を通じて、これからこの堺エコロジー大学運営事業の審査をしていただくわけですけれども、その前にもう一度この前のホワイトボードを参考に、ちょっと論点の整理、あるいは確認を最終しておきたいと思います。

まず、事業の必要性については、環境、エコのことだから、この事業は必要であろうというような御意見が検討委員の中からも出ておりましたが、特に環境、エコに対するきっかけをつくるという意味では、この事業はやはり必要性が非常に高いであろうということで、事業、これももう要らんからやめてしまえというような意見は全然なかったかなというふうに思います。

それから、投入しているお金と、それから出てくる効果については、もっと企業さんなんか、あるいはNPOさんなんかと協力すれば、同じお金をかけてもっといい内容、あるいは効果があらわれるのではないかとということ。

それから、きっかけづくりということで、小学校4年生を対象に副読本を配布していると。ただ単に配布するだけではなくて、その副読本をいかに活用していくかということを検討すれば、同じ副読本、100万円なら100万円かけたものが倍にも3倍にもなって、成果が上がるのではないかとのお話がありました。

それから、お金の面なので、できるだけ堺市民の税金の負担を軽減しようということで、外部の資金、国、大阪府だけではなくて、いろんなところからお金をいただくように努力をすべきではないか。今努力していただけてなかなか採択されないということですけども、さらなる努力、採択に向けた努力をしていただく必要があるのではないかとということでした。

それから、向かって右側のホワイトボードへ行きますと、関連事業とのあり方のところで、環境ということをつきかけに市民活動などを活性化させたその拡大にも、最終的にはつなげられるような事業にしてはいかがなものかというような御意見がありましたし、また、とりあえずは市内部の他の部局が実施している事業へサポーターさんの活躍の場を広げるべきであろうというようなこともありました。

それから、最後にこの事業の改善の方向性なんです。たくさんいろんな意見が出てきました。エコ大サポーターさんの活動、活躍をもっと今以上に広げていくべきだ。

それから、この事業についての広報については、きちんと誰をターゲットに、どんな内容を広報して事業を広げるのかということで、戦略的な広報とすべきであるということ。

それから、毎年同じようなことをマンネリ化を図るのではなくて、年度ごとに事業の重点化を図ってはいかがか、図るべきではないかとということ。

それから、PDCAを働かせるということで、ちょっとPDCAの御説明、皆さん御存知だと思いますが、中にちょっと今日初めて聞いたなという方がおられるかもわからないので説明しますと、PDCAのPはプランのPですね。まず、中身、事業をやりたいことを計画する。PDのDはドゥーということで、その計画を実施しますと。次のCはチェックですよ。実施した結果をチェックしてみよう。どうだったかというのを振り返ってみよう。最後Aは、そのチェックした内容を次の具体的なアクションに生かしていこうと、そういった計画から実施

して、評価して、それを次へ生かすという、この一つの流れをこの事業でもきっちりと取り組むべきですよと。

それから、一般講座、連携講座、あるいは専門コースの講座の体系とか、カリキュラムの体系をもっと戦略的に、この次にはこれを、その次にはこれをといった形でみんなが受講して、次のステップアップにつなげられるような、そういった体系に編成し直すべきであるのではないかということ。

それから、最後は堺らしさですよ。やはり堺市がやる事業であるので、ほかの政令市とは一味違いますよというような堺らしさを取り込むように、ぴらりと、ちらっと光るものの中にスパイスを入れよう。堺市らしさを取り込んで、事業の内容を改善すべきですよというような意見がありました。

さあ、これらをもとに、今から堺エコロジー大学運営事業の審査をしていただくわけですが、皆さんのお手元に審査用の審査シートというのが配付されていると思います。今からこの審査シートを使って、それぞれの検討委員、市民審査委員の方に御意見、自分の考えを書いていただくわけですが、その記入に当たって少し事務局から説明をしていただきたいと思います。では、ちょっと事務局で審査シートの説明をお願いいたします。

<審査シート記入方法説明及び審査シート記入>

(司会)

さあ、いかがでしょうか。皆さん、審査シートのほう、そろそろお書きいただきましたでしょうか。いかがでしょうか。もう少し時間をおとりするほうが良いという方はおられますでしょうか。大丈夫でしょうか。

では、事務局の方すみませんが、回収をして、集計をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

皆さん、審査シートを御提出いただきましたでしょうか。よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

それでは、今、回収していただいた審査の結果を事務局で集計していただくというふうに思います。その集計の間、少し時間がありますので、この時間を利用して、先ほど申し上げました市民審査委員の方から御意見、もっとこの事業をこうしたらええん違うかという、これはこう思うよ、私はこう思いますよというふうなのがあれば、御発言いただけたらというふうに思います。また挙手をいただきましたら、マイクを事務局の担当の者が持ってまいりますので、マイクで御発言をというふうに思います。

じゃあ、そちらの、今マイク行きますので。

(市民審査員)

企業でね。

(司会)

後ろマイク行きましたので、すみません。

(市民審査員)

企業で環境活動をやっている経験も踏まえてちょっと申し上げたいんですけども、このエコ大のことだけじゃなくて、全体のコースの整理もやっぱりきちんとせないかと。せっかくクール

シティー堺、全国で20都市ですよ。環境モデル都市ですか、選ばれて、全国のモデルになって、それに基づいてクールシティ堺を計画立てられていますので、その計画を先ほどPDCAも出しましたが、その計画の中に3R、リデュース、とかリユースとリサイクルなんか、それから水とか大気とかね、それから緑をどう守っていくのかとか、そういうのも、私ちょっと中身も聞いたけど忘れちゃったけど、そういう計画を実現するためにどういうふうな教育をして、人材育成をしていったらいいのかという。戦略的どうのこうの出たんですけども、やっぱりその計画を実現するためのこういう教育という、そういう結びつきが私は必要かなと思います。

それから、小学校の教育の話も出ました。私もそれは本当に必要だと思います。だから、小さいころから、小学校、中学校のころからやっぱり環境の意識、地球環境全体はどうなってるか、その中で堺はどうなんだという、全体、また堺のこと。それが自分たちの家庭の中でどうなのか、会社の中でどうなのか。そういうのをもっともっとみんなに認識を深めてもらって、そのためにやっぱり自分たちで行動を起こさないかんですから、そういうものを持っていけるように、そういうふうに、やっぱりこのエコ大だけじゃなくて、堺市の行政として、市立になってますので、小学校、中学校が。その市立の小中の中で副読本だけ配るんじゃなくて、もっともって教育のカリキュラムの中に入れていくということが私は必要ではないかと思います。以上です。

(司会)

はい、ありがとうございました。

すごく激励をいただいたような感じがしますね。もっと堺というような小さな土台だけではなくて、もっと全地球的な視野で堺の環境というのを捉えて活動すべきだということをお話しいただいたわけですけども、まさしくそうだと思います。やっぱり環境というのは、今グローバルな課題になっておりますので、大きな視点で、当然副読本なんかにもそういった視点も書かれてると思うんですが日々の仕事をする上で、そういう堺だけではなくて、もっと大阪、日本、全地球というような観点を取り入れて、また一般講座なんかの計画も練っていただけたらというふうに思います。

ほかどうでしょう。では、こちらどうぞ。

(市民審査員)

ここに講座の写真があります。これに卒業生が活躍してる場、それを公表する場所ってございますか？そういうものがあると卒業生の力になって、結局これをお聞きして初めてこういうものを知ったんですけど、せっかくこういう制度があって、卒業生がたくさんいる、その活躍がみんなに広がると。それが一番の、これが広がりやないかなと思います。そんなことを公表していただきたいと思います。

(司会)

はい、ありがとうございました。

卒業生、修了生の方の活躍も、本当にどんどんPRすれば、これから受講してみようかという人の励みにもつながるんじゃないかというようなお話だと思うんですが、ちなみにそういった卒業生、修了生の方の活躍を広報するというような場とか、何かそういう機会というのはございますか。

(所管課)

それを取り上げて広報するというのは今のところはしていないというところなんです、今ちょうどこのガイドブックの写真集の中で申し上げますと、左下のほうにございます「あなたの節電を見直しまへんか」という名前の写真が、4ページの左下から2番目のところにあろうかと思うんですが、ちょうどこの講座がこのエコロジー大学の専門コース修了生の方が企画された講座の風景の一コマという形でございます。明記はしてないんですが、一応こういうふうには広報はさせていただいております。

(司会)

はい、ありがとうございます。

すみません、ここでちょっと一旦集計が出たようなので、その集計を見て、それをちょっとまとめて、それでまた時間があればもうお一方、お二方ぐらい時間があれば、また御意見を伺いたいと思いますが、前のホワイトボードに集計結果が出たんですね。黄色が市民委員さん、これは括弧書きが内数ではないんですか。

(事務局)

別です。

(司会)

別枠ですね。黄色が市民審査委員の方の、どこに丸をつけられたかという人数で、この赤いのが検討委員の丸をつけた人数ということになります。

今後の方向性	事業の方向性	拡充			5(4)	5
		現状維持			3(1)	
		縮小				
		廃止				
			ゼロ	縮小	現状維持	拡大
		公金投入の方向性				

左:市民審査員 (右:検討委員)

縦軸が事業の方向性で、横軸が公金、どれだけお金を投入すべきかということですが、まず事業の方向性からいくと、拡充というふうに答えていただいているのが5人、4人、5人で14人。現状維持が4人ということで、この事業自体は、どちらかと言うともっと拡大、拡充していくべきではないかと。やはり環境というようなテーマなので、これは非常に重要だ。これは皆さんほとんど一致していたところで、その結果かなと思います。中には、この事業だけにとってみたらもう現状維持でもいいんじゃないかという方もおられますが、この第二会場の相対的な傾向としたら、この事業についてはもう少し拡大してもいいんじゃないかというような御意見に傾いているような感じですね。

それから、今度はお金、堺市のお金をどれだけ投入すべきかというところで、さすがにゼロと

か縮小はおられません。現状維持か拡大かということですが、まず現状維持というところで行けば5人、3人でこれは8人。9人、4人で13人ですかね。13人がお金については今投入している程度でいいのではないかと。市民審査委員の方のうち5名の方が、事業を拡大するんならお金ももう少し投入したらいいのではないかというふうにお書きいただいたわけです。総体的な傾向からいけば、お金は現状維持、今ぐらいでいいのではないかというような傾向です。最終的に、どこの升目が一番多かったかというところ、お金は現状維持で、お金は今ぐらいかけたらいいんじゃないですかと。そんな増やすことも減らすことも要りませんよと。ただし、そのお金で今よりももっと中身をすばらしくしてください、そうするのがこの事業にとったらいいんじゃないですかと、こういうような御意見だったかと思うんですよね。

それで、今審査シートを少し、皆さんがお書きになったやつを私のここにちょうだいしたんですけど、ではこの拡充とか現状維持とかで、この事業をどういうふうに変更なんかをしていったらいいのかということを見させていただけますと、やはり皆さんお書きになられてるのが、エコ大サポーターさんにもっと活躍してもらって、その場を広げるべきだというようなこととありますとか、それから、広報ですね。今回、初めてこういうのが堺でいろんなのをやってるのを知りましたと。もっと市民の人に広報をすべきだと。今日戦略的広報というのもありましたけれども、ただ単に広報をすべきではなくて、ちゃんと目的、対象を持って広報をしたら、市民に伝わるのではないですかということもありました。

それから、あとちょっと多かったのは、パラパラと見た中ですけども、小学生、中学生を対象に、もっと意識の啓発を重点的に取り組むべきですというようなお話もありましたし、それから、ここのお金について、現状維持だけでも、拡充するためには堺市以外の、国とか大阪府とか、財団というような話もありましたが、外部からお金をとってくるというのも非常に重要ではないかというような意見がありました。

ということで、総体的にこの堺エコロジー大学運営事業については、皆さんもう少し事業の中身を充実させようというふうになったわけです。ただし、お金については現状維持を念頭に、もっとお金が要るのであれば、どっちかというところ、外部資金の獲得なんかに努めてくださいというような傾向であったかなというふうに思います。

今日、この改善の方向性で書きましたけれども、やっぱり私は重要なのはこの、先ほども少しお話がありました、PDCAサイクルなんですよね。やはり同じ事業を計画してやりました。やったら終わりだけではなくて、きっちりアンケートもおとりだったということなので、そのアンケート結果、あるいはまたほかの市民意識調査なんかもされているのであれば、そんなのを参考にして、必ず事後的に事業を評価してそれを次の年度に生かすという、それを日常の仕事の中に取り込んでいただくというふうにしていきたいというふうに思います。

では、大体この事業をまとめさせていただくと、以上のようになるかと思いますが、総体的にこの事業はもう少し充実させるべきだというふうになったということとありますので、市の担当では今日の意見を踏まえて、今後また御検討いただきたいと思います。

それでは、事業をまとめたんですが、最後にもうちょっと市民審査委員の方で、少し今の結果も踏まえて、もう少し一言、二言お話をできたらしたいという方がおられたら、時間をおとりいたしますが。

はい、じゃあ。マイクをすみません。

(市民審査員)

すみません。二度目で、お願いします。

中学生、高校生に関して、サポーター制度というのは将来つくられるつもりとか、そういうこ

とを創設して認識を広めたいとかという考えはありますか？

(司会)

まあ、いわゆる環境のリーダー的なやつですよ。ですから、小学生、中学生で。

(市民審査員)

特にやっぱり、年齢が高くなっていくとそれなりに時間帯、仕事を持ちながらというのも多いですから、できれば若い世代、中学校、高校生、そういった方々のほうがまだどちらかという時間的余裕があるので、そういう方々が、例えば町の中に出て広報活動をするなり、自分たちはこういう環境活動してますよ、皆さん協力してくださいみたいなことを発表するとか、そういった場を、サポーター制度というのを中学生、高校生に与えることができれば、彼らのモチベーションもすごく上がると思うし、やっぱりそういう学生時代に経験したことは大人になってからでも記憶に残ってるもので、ふとしたときに、「あっ、学生時代にこういうことがあったな。ちょっとやっぱりこれから気をつけないといけないな。これからこういうこともしていかないといけないな。」と思ったり、そういう動機づけになると思うんですけども、そういった中学生、高校生のサポーター制度の創設とかいうのは、将来的には考えていらっしゃるんですか。

(司会)

では、これ少しだけ市の担当からお答えいただいて、第一部の終了にしたいと思うんですが、その小学生や中学生でもそういうエコサポートリーダー的なものの認定というんですかね、そういう制度というのは検討されてますかというようなお話だと思うんですが。

(所管課)

ありがとうございます。今のところ、小学校、中学校、高校生対象のそういうサポート制度というのは、まだ何も白紙の状態、検討していないのが率直なところです。今後、いろいろこのエコ大を活用、拡大、拡充していく中で、どういうことができるかということを経験していきたくと思います。よろしくお願ひします。

(司会)

ありがとうございました。

それでは、ちょうど予定している時間になりました。

最後に、小学生や中学生でもやっぱりそういうリーダー的な、人材の育成というのが一つ必要ではないかというような御提案をいただいたところでございます。

この事業については、また繰り返しになりますが、事業の方向性は拡充して、もっと堺市の環境啓発を進めるべきだ。ただし、お金の面では余りお金をかけられないので、現状維持で、事業の内容を充実させてください。そのために事業の改善の方向性、見直しの方向性等は前のホワイトボードにもありますし、いろんな今日の意見交換の中で発言がございました。それらを踏まえて、今後一層の堺市の環境啓発に努めていただきたいというふうに思います。

それでは、ちょうど時間となりましたので、午前の1つ目、「堺エコロジー大学運営事業」の審査をこれで終了させていただきたいと思ひます。

ありがとうございました。